ISSN 0919-7850

名大トピックス
NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.267
2015年8月

ジェトロとの包括連携協定調印式並びに記念シンポジウムを開催

名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY
http://www.nagoya-u.ac.jp/

名大トピックス No. 267

目 次

●ニュース
ジェトロとの包括連携協定調印式並びに記念シンポジウムを開催 3
松尾総長が全学教育科目「名大の歴史をたどる」で講義 4
野球場改修工事完工式を挙行 4
フライブルク大学からの職員受け入れ研修を実施 5
キャンパスノート企画によりベトナムの高校生が来訪 5
学術奨励賞授与式を挙行 6
内田浩二生命農学研究科教授が平成27年度全国発明表彰を受賞 6
第49回経営協議会を開催 7
アデレード大学とのジョイント・ディグリープログラムを開設 7
●キャンパスクローズアップ
ナショナルイノベーションコンプレックス 8
●知の先端
薬物依存モデル動物を用いた脳と心の研究 10
山田　清文（医学部附属病院教授）
●知の未来へ
70年代日本の広報活動 12
井原　伸浩（大学院国際言語文化研究科准教授）
●部局ニュース
人類文化遺産テクスト学研究センター公開セミナーを開催 13
東海地区附属学校園 PTA スポーツ交流会を開催 13
第４回減災連携研究センターシンポジウムを開催 14
水田　洋名誉教授への感謝状贈呈式を挙行 14
己書セミナーを開催 15
第111回防災アカデミーを開催 15
第36回トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催 15
●名大を表敬訪問された方々 16
●新たに締結した学術交流協定 16
●構成員を対象とした研修 17
●本学関係の新聞記事掲載一覧　平成27年６月16日～７月15日 18
● INFORMATION
第11回名古屋大学ホームカミングデイ 21
「持続可能社会の実現に向けて」を10月17日（土）に開催
概要パンフレット「名古屋大学プロフィール2015」を刊行 22
●イベントカレンダー 22
●ちょっと名大史
福山すすむ作「田園」と豊田講堂 28

ジェトロとの包括連携協定調印式並びに記念シンポジウムを開催

2
3
1

1　パネルディスカッションの様子
2　調印後に握手を交わす
　石毛ジェトロ理事長(左)と総長(右)
3　調印式の様子

本学と日本貿易振興機構(ジェトロ)との包括連携協定調印式並びに記念シンポジウムが、６月25日(木)、理学南館において開催されました。

調印式には、石毛博行ジェトロ理事長と松尾総長が出席しました。調印のあいさつとして石毛理事長からは、ジェトロが長年培ってきた海外ネットワーク、人的資源、知識経験を活かし、本学のグローバル展開に必ず役に立てるとの自信が述べられ、総長からも、グローバルな人材育成をジェトロとの連携により強化していきたいと本協定締結への強い期待が述べられました。出席した報道関係者からの質問も相次ぎ、社会的な関心の高さも印象付けられました。

調印式終了後には、坂田・平田ホールにおいて、「名古屋大学と JETRO の挑戦－中部地区から世界に羽ばたく、新たな産業と人材を育成する－」と題した記念のシンポジウムが開催されました。

シンポジウムでは、まず、磯田アジアサテライトキャンパス学院長が基調講演として、歴史的なトレンドとしての国家の形成と変容の過程を、各種の学説を引用しながら論じ、国家を超えた視点からの人材育成の必要性を説き、その後アジアを核とした本学のグローバル戦略について解説しました。

続いて、谷口　恒株式会社 ZMP 社長から、起業の経緯、車の自動運転機能の開発、その技術のロボットへの応用とビジネス展開について講演が行われました。講演の中で、武田一哉未来社会創造機構教授と協働で実施している、名古屋市内での自動走行車路上実験についても、その意義が述べられました。

最後に、「グローバルに活躍する、中部地区発ベンチャーを如何に育成してゆくか」をテーマにパネルディスカッションが開催され、基調講演者である谷口社長、古賀良太株式会社クロスアビリティ社長、本学卒業生であり名古屋をベースにベンチャー育成に活躍する、高村徳康セレンディップ・コンサルティング株式会社社長、三橋敏宏ジェトロ知的財産・イノベーション部長と、財満学術研究・産学官連携推進本部長の５名がパネリストとして参加し、北川浩伸ジェトロ総務課長が司会を務めました。ディスカッションでは、パネリストの起業家３名から、起業について自らの想いと経験が述べられました。続いて、三橋部長からジェトロの起業家支援事業について説明があり、財満本部長が、中部地区の起業の実態と本学の起業家支援活動を説明しました。さらに、起業家として、どういった支援がありがたかったか、ジェトロや大学にどういった支援を期待するかについて議論が行われ、最後に、三橋部長からジェトロの米国ベンチャー支援事業について、本学で説明会を開催したいとの提案があり、財満本部長がこれを歓迎するかたちで議論を結びました。

今後、本包括協定提携の輪が拡大し、学内の多くの部局を巻き込み、提携の成果が次々と結実していくことが期待されます。

松尾総長が全学教育科目「名大の歴史をたどる」で講義

松尾総長は、６月16日（火）、IB 電子情報館大講義室において、全学教育科目「名大の歴史をたどる」の講義を行いました。

この講義は、吉川卓治大学文書資料室教授が開講する、全学部の１年生前期を対象とするもので、毎年約200名の学生が受講します。総長による講義は、現在までの名大の歴史を一通り解説したうえで、毎年１回、総長をゲスト講師として、これからの名大などについて語ってもらうものです。今年が初めての講義となった総長は、「名古屋大学の過去、現在、未来－人類の幸福と社会貢献への挑戦－」と題し、学生たちに講義を行いました。

講義を行う総長

総長は、現代の日本が、社会の高齢化をはじめとする、課題に満ちた「課題先進国」であることから説き起こし、これらの課題を解決するため、本学で何を学ぶべきか、と学生たちに問いかけました。そして本学は、10年後、20年後の将来ビジョンとして、社会参加寿命が平均寿命に近くなり、多様性が尊重されながら高齢化しても活き活きと暮らすことができ、その発展が持続できる社会を想定し、このビジョンを実現するために「日本屈指の大学から世界屈指の大学へ」をスローガンとして、トップグローバル大学を目指すことが述べられました。さらにそのための具体的な取り組みについて、海外や東日本大震災時における自身の経験を織り交ぜながら解説していきました。そして最後に、自身のモットーである「安定は動の中に在り」という言葉で講義を締めくくりました。

野球場改修工事完工式を挙行

野球場改修工事完工式が、６月29日（月）に挙行されました。

当日は、梅雨の晴れ間の中、松尾総長、理事をはじめとした役員及び現役の野球部員、その他関係者多数の出席のもと挙行されました。

本学野球場は、昭和35年に造成されて以来、今回が初めての本格的な改修となりました。改修により、バックネット及び外周フェンスを新設してダグアウトと一体化し、外周フェンスは利用者の安全に配慮して全面クッション材入りとなり、併せて内外野グラウンド全体も再整備され、見違える姿となりました。

始球式を行う総長

完工式では、はじめに総長から関係者への労いと野球部への激励のあいさつがあった後、硬式野球部及び準硬式野球部の各代表学生から、野球場改修に対する感謝のことばと今後の抱負が述べられました。

続いて行われた始球式では、総長がピッチャーマウンドに、対するバッターボックスには硬式野球部部長である木村理事が立ち、総長が投じた低めへの気迫溢れる一球に、集まった観衆から感嘆の声が上がりました。

本学の歴史とともに学生の成長を見守り続けた野球場は、今回のリニューアルを経て、今後より一層多くの学生がスポーツに親しみ、心身を鍛える場として利活用されることが期待されます。

フライブルク大学からの職員受け入れ研修を実施

ドイツ・フライブルク大学からの大学職員受け入れ研修が、６月８日(月)から26日(金)までの約３週間実施されました。フライブルク大学は本学の大学間交流協定校であり、今回、研究担当副学長秘書であるソラナ・カムラ氏を職員研修として受け入れました。受け入れにあたっては、事務局総務部・研究協力部・教育推進部が協力して、本人の興味・関心を踏まえた上でプログラムを作成しました。

ドイツの教育制度とフライブルク大学について説明するカムラ氏

滞在期間中は、松尾総長や理事との懇談、学内の各部署やいくつかの部局、研究所等を訪問して関係者との意見交換を行ったほか、24日(水)には、昼休みを挟んでの２部構成によるプレゼンテーション及び本学教職員との意見交換の機会を設けました。第１部では、カムラ氏よりドイツのアカデミックシステム及びフライブルク大学を紹介するプレゼンテーションが行われ、第２部では、フライブルク大学の最近の課題について説明があり、本学側からも最近の国際化をめぐる動きについての説明が行われ、出席した教職員との間で活発に質疑応答が行われました。

キャンパスノート企画によりベトナムの高校生が来訪

コクヨベトナムと全日空の共催によるキャンパスノート(日本の大学シリーズ) 企画により、７月14日(火)、ベトナムの高校生20名が本学を訪問しました。この企画は、日本の大学紹介が掲載されたキャンパスノートを購入したベトナムの高校生を日本に招待し、掲載大学を順次訪問するという新たな試みであり、本学のほか、上智大学、関西大学、立命館アジア太平洋大学の計４大学が参加しました。

茶道体験の様子

本学におけるベトナムからの留学生数は、中国・韓国・インドネシアについで４番目に多く、現在は59名が在学しています。今後さらに、ベトナムから優秀な学生を獲得するためには、本企画への参加などにより、ベトナムの高校生に学生生活を実際に体験してもらうことで、ベトナムにおける本学の知名度を上げることが重要となります。

来訪した高校生は、大学紹介の後、学内施設の見学を行い、理学部では、化学・物理・生物の各研究室に分かれ熱心に説明を聞いていました。さらに、附属学校での茶道体験など、日本文化に接しました。最後に行われた本学に留学中のベトナム人学生を交えた懇談会では、本学での学生生活について意見交換を行いました。

今回の訪問の様子は、報道等でも紹介され、本学における国際活動の PR にもつながりました。帰国後に実施したアンケートでは、本学の印象は大変良く、今回の企画で知り合った学生同士が１年後に本学での再会を約束するなど、本学にとって大変意義のある訪問となりました。

学術奨励賞授与式を挙行

平成27年度名古屋大学学術奨励賞授与式が、６月19日（金）、豊田講堂第１会議室において挙行されました。

同賞は、学術憲章に定める基本理念に基づき、本学の大学院博士課程後期課程に在学する特に優秀、かつ、将来有望な学生に対して、その教育研究活動を奨励することを目的とし、平成23年度に創設された顕彰制度です。今回の受賞者は８名であり、過去４回の受賞者を加えると同賞の受賞者は35名となりました。受賞者には、表彰状及び副賞として学業奨励金80万円が授与されました。

記念撮影

授与式には、松尾総長をはじめ理事、研究科長、指導教員等が列席し、総長からは、「メンターの先生方を超える気概で今後も研究を続けていただき、また、融合的な研究と名古屋大学の総合性を生かして新しいものを生み出して欲しい。これにより、自分の研究を社会の発展、幸福に繋げていただき、さらに、様々な場面でリーダーシップを発揮する素晴らしい人材になっていただきたい」と激励の言葉がありました。

受賞者は以下のとおりです。

【理工系】	大学院理学研究科	武藤　慶
	大学院工学研究科	三浦　峻
	大学院工学研究科	水谷　剛士
	大学院多元数理科学研究科	Ade Irma Suriajaya
【生物系】	大学院理学研究科	竹川　宜宏
	大学院医学系研究科	村田　萌
	大学院生命農学研究科	田中　奈月
	大学院創薬科学研究科	齊藤　恭紀

内田浩二生命農学研究科教授が平成27年度全国発明表彰を受賞

内田浩二生命農学研究科教授が平成27年度全国発明表彰「21世紀発明奨励賞」を受賞しました。

本表彰は、公益社団法人発明協会が毎年、優れた発明の完成者、またその実施者、発明の指導・奨励・育成に貢献した者を表彰することにより、我が国の科学技術の向上と発展に寄与することを目的に行われています。

表彰式での記念撮影（左が内田教授、右が総長）

今回、内田教授が受賞した「21世紀発明奨励賞」は「科学技術的に秀でた進歩性を有し中小・ベンチャー企業、大学及び公設試験研究機関の発明等」を対象とした第２表彰区分での表彰であり、中小企業・大学等研究機関の発明等については今年度より新たに表彰対象となったものです。受賞対象となった発明は「自己抗体を用いた疾患診断技術の発明」であり、この研究を基盤として生活習慣病の予防・改善へとつながることが期待されます。

また、今回、松尾総長が本学の代表者として「21世紀発明貢献賞」を同時に受賞しました。

なお、６月17日（水）には、ホテルオークラ東京において表彰式が執り行われ、内田教授、総長が出席しました。

第49回経営協議会を開催

第49回経営協議会が、６月30日（火）に開催されました。会議では、松尾総長からあいさつの後、平成26年度大学機関別認証評価の評価結果、平成26年度学部卒業者・大学院修了者等の進路状況、平成27年度学部・大学院入学試験状況、大学院の収容定員の充足率、外部資金の受入状況等、名古屋大学基金、平成27年度会計監査人の選任について報告が行われました。

会議の様子

次いで、平成26年度実績報告書、平成26事業年度決算、総長選考会議学外委員の選出、第３期中期目標･中期計画、平成28年度概算要求について、総長、各担当理事及び副総長から説明が行われ、審議の結果、了承されました。

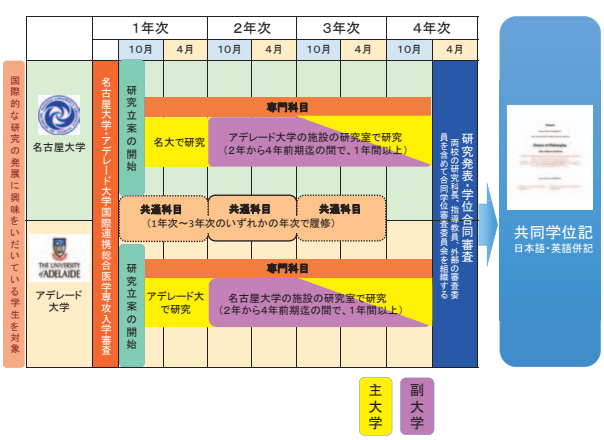
外部委員の方々からは、平成26事業年度決算及び平成28年度概算要求について活発な意見交換が行われ、また、策定中である松尾プラン（NU MIRAI 2020）に関しても貴重なご意見が寄せられました。

なお、同日には第22回総長選考会議も開催され、次期総長の選考について審議が行われました。

アデレード大学とのジョイント・ディグリープログラムを開設

本学が文部科学省に申請していた、大学院医学系研究科名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻の設置が６月15日付で認可されました。本専攻は、大学院医学系研究科とオーストラリア アデレード大学保健科学部が共同で１つの大学院プログラムを実施するもので、このような海外大学との共同学位（ジョイント・ディグリー）プログラムの設置が認められるのは、国内の大学では初めてとなります。

名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻年次概要



今年10月から学生の受け入れを開始し、所属学生は在学期間中、両大学において一定期間の教育を受け、修了時には両大学の連名による１つの学位が授与されます。

アデレード大学健康科学部とは昨年３月に大学院医学系研究科との間で、医学博士号授与に関する共同教育プログラム等の覚書の調印を行うなど、本プログラムの設置に向けて準備を進めてきました。本プログラムは大学教育の質保証を国際的に進めていくうえで、大きな役割を果たすことが期待され、また、スーパーグローバル大学創成支援事業に採択されるなど、世界トップレベルの大学を目指す本学にとって、先端的研究の強化、共同教育・研究の枠組み拡大にもつながります。

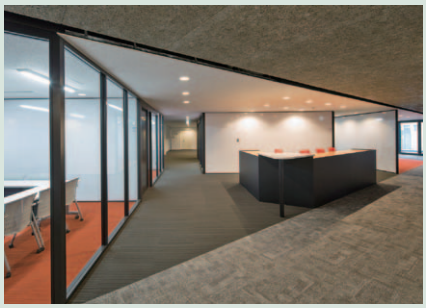
今後は、両大学それぞれの持つ強みをいかした補完関係の構築、国際的な視野と高い競争力を持つ医学研究の推進、それによる優れた次世代研究者の育成に取り組んでいきます。

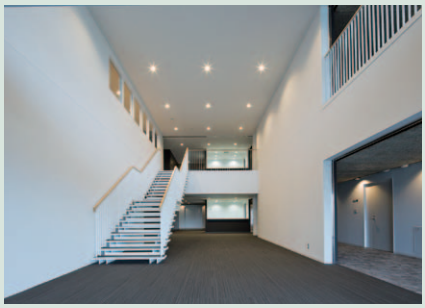
47. ナショナルイノベーションコンプレックス
National Innovation Complex

平成26年度、名古屋大学は、文部科学省「地域資源等を活用した産学連携による国際科学イノベーション拠点整備事業（平成24年度）：愛知県、豊田市、トヨタ自動車(株)との共同申請」の採択を受けナショナルイノベーションコンプレックス（National Innovation Complex：NIC）を整備しこの３月建物が完成しました。

NIC は、本地域が強みとしているものづくり技術人材と研究人材資源を結集させることにより、世界水準のイノベーション創出拠点の形成をはかるとともに、本学の学術研究・産学官連携推進活動に関わるワンストップサービスを提供する研究施設です。

産学官の連携を表現すべく、ES 総合館と工学部５号館、四谷通りに挟まれた三角形の建物形状の３辺には、100m^{2}を基本単位とする研究室に企業や学内の多様な組織が並んでいます。それらに囲まれた中央の「三角形のコモンスペース」には性格の異なるコミュニケーションスペース（スタジオ／パントリー／ブラウジングコーナーなど）があり、外周部の研究室から、研究者が集い、出会い、様々な研究分野のディスカッションが行われ、あたかも研究の市場を巡る様な体験があります。





1　5 6
2 3 4

1　外観（南西面）
2　外観（西面）
3　１階エントランスホール
4　１階車両実証室
5　コミュニケーションスペース（ブラウジングコーナー）
6　５階・６階吹抜

３階までは展示、ワークショップや研究集会のために開放され、外部利用者等の利便性を向上させるため吹抜けを設けています。

１階のホール（NIC Idea Stoa）は、展示を含む多目的な用途に対応しており、隣接するエントランスホールや交流スペースを活用し、賑やかな場を創出します。また、四谷通りに面する車両実証室は「外から見える実験室」となっています。

４階は、実験室のフロアとして高い天井高を確保し、大部分を間仕切りの無い空間としています。

５～８階は多分野の研究室、実験室が混在するフロアとなっています。断面的な機能配置を考慮して、２層毎に吹抜けを設けることで、フロアセキュリティにも配慮しつつ、視線の交流などを介した、フロア間のコミュニケーションを活性化させています。

各フロアにアイデンティティを持たせたコンセプトカラーを設定し、エレベーターホール前の床・壁、コモンスペース内スタジオの床にアクセントカラーとして取り入れています。白、黒のモノトーンを貴重とした内外装の中で、空間にリズムを生み出しています。

環境負荷低減と周辺の景観にも配慮し、アースチューブ及び各階の自然換気スリットからの外気取入により、温められた空気が重力換気及び風力換気により階段室最上部に取付けた窓から排出できる設えとしました。３階より上階には設備バルコニーを設置し設備更新性を高めるとともに、これを覆う有孔折板ルーバーによって日射を制御できる設えとしています。

これらの取り組みは、建築環境総合性能評価システム CASBEE 名古屋において、定量的に評価され、自然エネルギーを可能な限り活用した施設として、A ランク（大変良い）を獲得しました。

本事業の申請に際し、本学では、「我が国がすでに直面している超少子高齢化社会において、人々の絆と活力に満たされた生活を実現する『小さな社会、大きなつながり』が重要であり、この社会ビジョンに近づくためのイノベーション技術の創出を実現したい」との提案を行いました。この理念を継承し、NIC では、産学官連携研究開発を強力に推進していく「施設」のみならず、地域の皆様と共有できるビジョンを地域の皆様と実現していく「場」として役割を果たしていきます。

（施設管理部・工学部施設整備推進室）

薬物依存モデル動物を用いた脳と心の研究

山田　清文　医学部附属病院教授

薬物依存とは、ある薬物の精神的効果（快感）を得るためにその薬物の摂取を強迫的に欲求している状態であり、「薬が欲しい」とか「薬が止められない」状態のことです。依存を誘発する薬物は「依存性薬物」と呼ばれ、モルヒネやアヘンなどのオピエート類、メタンフェタミンなどの覚せい剤、コカイン、大麻、睡眠薬などがあります。嗜好品であるアルコールやタバコに含まれるニコチンあるいはトルエンなどの揮発性有機溶剤も依存性を示します。最近ではデザイナーズドラッグとよばれる危険ドラッグの乱用が急増し、薬物依存のゲートドラッグになることが懸念されています。

私たちの研究室では、作用機序が異なる薬物が共通して薬物依存を惹起するメカニズム、さらに薬物依存が一旦形成されると、長期に断薬しても永続する強い渇望により薬物依存が再発・再燃する神経機構について、薬物自己投与モデルを用いて研究しています（図１）。薬物依存患者では認知機能や意思決定に障害があることが知られていますので、そのメカニズムの解明にも取り組んでいます。

図１　マウスの薬物（覚せい剤）自己投与実験

薬物依存の発症機構

依存性薬物は、オピオイド受容体、ドーパミントランスポーター、カンナビノイド受容体など様々な神経伝達物質受容体やイオンチャネルに結合してその機能を活性化あるいは抑制し、結果として中脳ドーパミン神経を賦活して快楽中枢である側坐核でドーパミンの遊離が増加します。この時の快感が薬物乱用の引き金になり、乱用によりドーパミン神経－側坐核回路が繰り返し異常興奮すると前頭葉皮質や側坐核神経に可塑的な変化が生じて薬物依存が形成されます。これまでに我々のグループでは、TNF-α、組織プラスミノーゲン活性化因子（tPA）、マトリックスメタロプロテアーゼ（MMP-9）などがドーパミン受容体刺激により側坐核で誘導され、これらがドーパミン神経伝達を増強する機能を有することを見出し、依存形成に関与していることを明らかにしました。ま

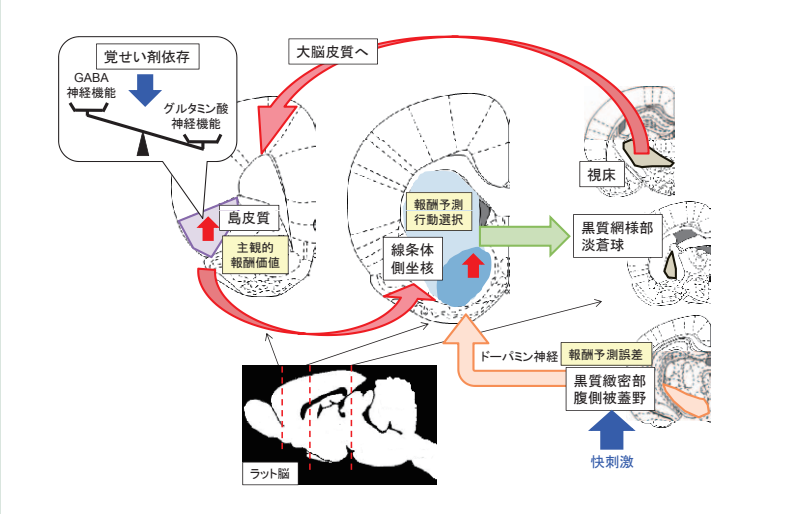


図２　覚せい剤依存における意思決定障害の神経基盤（仮説）

た、薬物依存の再発・再燃現象をマウスの薬物自己投与実験で再現し、グリア由来神経栄養因子（GDNF）ヘテロ遺伝子欠損マウスでは野生型マウスに比較してメタンフェタミンに対する欲求が倍増していることを明らかにしました。さらに、薬物自己投与行動の消去後でも条件刺激により薬物探索行動が出現し、これが野生型マウスに比較して強く、しかも長く続きます。逆に GDNF 遺伝子を大脳基底核に導入するとメタンフェタミンの自己投与量と薬物探索行動は減少します。

薬物依存による意思決定障害とその神経基盤

薬物依存者の意思決定は近視眼的であり、長期的な利得の予測や評価が健常者とは異なります。薬物依存者の他、ギャンブル障害や統合失調症の患者においても意思決定障害が認められますが、その神経基盤はほとんど解っていません。この学際領域の問題に挑戦するために環境医学研究所の溝口博之助教、犬束歩客員研究員（自治医科大学助教）ならびに環境学研究科の片平健太郎准教授と共同研究を進めています。独自に開発したラット用ギャンブルテストを用いて調べた結果、薬物依存ラットではコントロール動物に比較してハイリスク・ハイリターンの選択肢を選ぶ割合が高いこと、この意思決定の変化には島皮質神経の異常な興奮が関与していることを明らかにしました。さらに、計算理論に基づくシミュレーションにより、覚せい剤依存ラットではハイリターンに対する主観的報酬価値が大きくなっていることがわかりました（図２: PNAS in press）。

これらの研究成果は薬物依存の予防や診断・治療にも応用可能であり、意思決定障害に関する研究はギャンブル障害の病態解明にも繋がるものです。

やまだ　きよふみ

1983年名城大学大学院修士課程修了
1983年－1993年製薬メーカーにて創薬研究
1994年－2002年名古屋大学医学部附属病院薬剤部
（1998年より助教授）
2002年－2007年金沢大学薬学部教授
2007年より現職
専門分野：神経精神薬理学と医療薬学
モットー：自分に厳しく、他人に優しく（最近は“自分にも優しく”です。）

70年代日本の広報活動

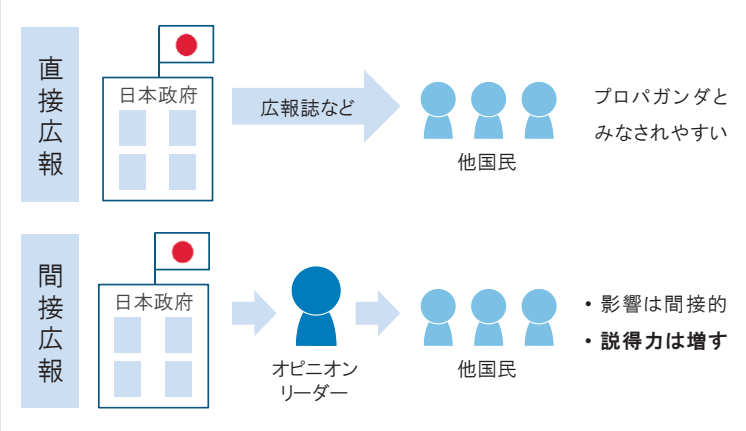
大学院国際言語文化研究科准教授
井原　伸浩

1970年代前半、東南アジアの反日感情はピークを迎えていました。72年にはタイで日貨排斥運動が、また、74年の田中角栄による東南アジア歴訪時には、多くの訪問先で反日デモが発生し、インドネシアではデモが暴動に発展しました。いかに日本政府は、こうした反日感情を緩和しようとしたのでしょうか。

国家のイメージアップには、様々な手法がありますが、今回は広報を取り上げてみます。当時の日本政府は、直接広報と間接広報の２種類を区別していました。直接広報は、日本政府が主体となって、イメージアップのターゲットである他国民に直接、現地における日本の経済的貢献などをアピールすることです。政府による刊行物、広告記事、動画の作成や放送などが挙げられます。しかし、直接広報は、プロパガンダとみなされる危険があり、その有効性には限界がありました。

当時の外交資料を紐解くと、外務省は、直接よりも間接広報に力を入れていたことが分かります。これは現地の指導者やジャーナリストなどの対日認識をまずは改善したうえで、そうしたオピニオンリーダーに、様々な場で日本の活動を肯定的に論評してもらおうというものです。この方式だと、日本のイメージアップ政策が、プロパガンダとみなされる危険性が減少する利点があります。文字通り、広報の効果は間接的であるものの、長い目で見ればこちらの方が有効だという判断です。例えば、外務省が現地でシンポジウムや講演会を開催する際、講師を日本政府の役人でなく、学者や専門家に依頼したうえで、そこに、各界の指導者や現地の報道機関に参加してもらうよう働きかけました。また、日本の援助プロジェクトなどの視察に、現地の有識者や報道関係者を招いたりもしています。

早くも70年代後半にかけて、東南アジアの対日感情は徐々に改善していきます。それには様々な政治的理由があるのですが、こうした地道な広報活動の貢献も見過ごすべきではないでしょう。



直接広報と間接広報

グローバルメディア研究センターのホームページを、ぜひご覧ください
http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/media/gmrc/index.html

人類文化遺産テクスト学研究センター公開セミナーを開催

●大学院文学研究科

大学院文学研究科附属人類文化遺産テクスト学研究センターは、７月11日（土）、文学部棟において、公開セミナー「聖なる場におけるイメージと『もの』」を開催しました。

同センターでは、伝統的な人文学の分野では別個に考察される傾向の強かった、イメージ、「もの」、テクスト、そしてこれらを受容する人間といった多様な要素を総合的に研究することを通じて、新たな学術領域の開拓を目指しています。今回のセミナーは、こうした方向性に沿ったものとして、キリスト教の聖堂空間内に設置される多様な事物が織りなす複雑な関係性に着目し、現代の私たちの学問体系では、その網の目をくぐり抜けてしまう、過去の知のあり方を再構成することに重点を置きました。

講演する水野教授

最初に、阿部同センター長からあいさつと趣旨説明があった後、水野千依青山学院大学教授による「『神聖空間』と『場の模倣』－トスカーナの聖母像崇敬を例に－」と題した講演が行われ、「空間的イコン」とそのコピーという概念を用いて聖母崇拝の系譜を精密に跡付けました。続いて、木俣副総長・同研究科教授による「展示空間としてのゴシック聖堂」と題した講演では、シャルトル大聖堂にかつてあった多数の祭壇とステンドグラスとの関係性が概観されました。さらに秋山　聰東京大学教授による「儀礼における聖遺物、聖体および聖像」という講演では、聖遺物、聖体、聖像という異なったカテゴリーに属すると見られがちな事物を儀礼と関係づけて総合的に論じました。最後に意見交換の場が設けられ、今後の研究の展開に向けて多くの貴重な示唆が得られました。

東海地区附属学校園 PTA スポーツ交流会を開催

●教育学部附属中・高等学校

教育学部附属中・高等学校では、６月13日（土）、東海地区附属学校園スポーツ交流会を開催しました。第３回目となる今回は、同校が事務局として東海地区の附属学校園 PTA 相互の交流と親睦を目的に開催しました。

第１回ソフトボール大会、第２回ドッジボール大会では同校からは２チームが参加して、優勝と３位の成績を収めています。

開会の様子

今年は、前日があいにくの雨となりましたが、朝早くからグラウンド整備のほか、案内・運営に多くの同校生徒保護者からの協力もあり無事に開催することができました。

愛知、岐阜、静岡、三重４県の附属学校園13校園から、大人148名、子ども105名の参加があり、７チームに別れ、チーム対抗競技と交流プログラムを行いました。

交流プログラムとしては、パン食い競争、小学生以下のかけっこ、障害物競走などが行われ、午後一番のプログラムでは、マイムマイムを全員で踊りました。

また、チーム対抗競技としては、綱引き、チーム対抗リレーなどが行われ、真剣勝負が繰り広げられました。参加者が皆、アクティブな１日を過ごすことができ、小さなお子様から保護者まで童心にかえり楽しむことができました。次年度以降も同様の交流会を通して附属学校園同士の交流も活発化していきたいと思います。

第4回減災連携研究センターシンポジウムを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、６月18日（木）、減災館１階の減災ホールにおいて、第４回減災連携研究センターシンポジウム「巨大地震を前に建築耐震のあり方を考える」を開催しました。まず、今年度より減災連携研究センターの客員教授に就任した福山　洋国土交通省国土技術政策総合研究所住宅研究部長と梶原浩一国立研究開発法人防災科学技術研究所兵庫耐震工学研究センター長から、建築耐震に関する調査開発研究をテーマに基調講演がありました。続いて、長江拓也同センター准教授が進行役となり、講演者２名に斉藤大樹豊橋技術科学大学教授を加えた４名によるパネルディスカッションが行われ、日本の建築耐震をめぐり聴衆も交えた活発な議論が行われました。議論では、建築耐震の専門家による説明が非専門家に伝わりにくいこと、専門家間でも安全や安心に関する認識が完全に一致しないことなどが指摘され、議論を積み重ねることに期待の声が集まりました。

パネルディスカッションの様子

また、同センターが取り組む研究プロジェクトについて同センター教員から紹介も行われました。まず、「東海圏減災研究コンソーシアム」における大学間研究連携の成果や「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」における分野横断研究の成果が示され、続いて「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」や都市圏防災ワークショップの取り組み、地域の「防災人材発掘」プロジェクトといった地域の行政や住民を巻き込んだ実践的研究の成果が示されました。最後に減災館を通した防災・減災への啓発活動や災害対策室の取り組みについて紹介がありました。

水田　洋名誉教授への感謝状贈呈式を挙行

●附属図書館

附属図書館では、７月15日（水）、館長室において水田　洋名誉教授ご夫妻への感謝状贈呈式を挙行しました。これは、平成19年度及び平成21年度に水田名誉教授から譲り受けた近代西洋社会思想史コレクションを補完する、1850年以前に刊行された貴重書を含む研究書約4,200冊並びに、水田名誉教授夫人である水田珠枝名古屋経済大学名誉教授から、近代西洋女性解放思想史関係資料のうち、同じく1850年以前に刊行された貴重書を170冊余りご恵贈いただき、附属図書館の蔵書整備に多大な貢献をされたことに対する感謝の意を表したものです。

感謝状贈呈の様子

贈呈式終了後には、森附属図書館長、大西事務部長、竹谷情報管理課長のほか、水田文庫の整理を担当した中井えり子研究開発室研究員、小島由香図書情報係長も交えて歓談が行われ、本学の歴史や水田名誉教授の在任中の思い出話が語られました。

歓談後は、昨年完成した新しい貴重書室に移動し、水田文庫の中から代表的な18点の資料について、中井研究員による説明が行われました。寄贈された資料の中には、製本の綴じが異なる版本や、刷の違いを比較分析できる資料もあり、水田名誉教授からは、資料を手に入れるまでの経緯が披露されるなど、西洋古典資料の書誌学について様々な意見交換が行われました。

己書セミナーを開催

●大学院工学研究科

己書に取り組む参加者

大学院工学研究科は、７月８日(水)、同研究科国際交流室において、己書セミナーを開催しました。このセミナーは、同研究科国際交流室とコミュニケーションデザイン室が共同で開催し、書家の高橋聡子氏を講師に招きました。己書とは、筆ペンを用いて絵を描くように文字を描く書道の一種で、通常の習字とは異なり、文字を描く際のルールはほとんど無く、書き順すら自由で、誰でも手軽に文字を描くことが出来ます。工学部・工学研究科の日本人学生と留学生から希望者を募り、書道という日本文化を通じて双方の交流を図ることを目的に開催しました。

当日は、高橋氏より己書についての説明があった後、実演とともにセミナーが行われ、留学生も、日本語を学び始めて日が浅いとは思えない程上手に文字を描き、書を通じた自己表現を楽しみました。今後も、国際交流室ではこのようなイベントを通じ、留学生と日本人学生の交流、留学生の日本文化への理解を促進していきます。

第111回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

講演する関澤教授

減災連携研究センターは６月24日(水)、減災館１階減災ホールにおいて、第111回防災アカデミーを開催しました。今回は、関澤　愛東京理科大学教授による講演「大規模地震による都市火災リスクに備えて」が行われ、69名の参加がありました。

関澤教授からは、関東大震災、阪神・淡路大震災、東日本大震災のいずれも甚大な火災被害を呈した歴史が紹介され、わが国の地震火災リスクの高さが改めて示唆されました。その後、南海トラフ巨大地震や首都直下地震などの将来の大規模地震発生時の同時多発火災に対して、常備消防、消防団、自主防災組織は何ができるか、そして自助・共助・公助に求められている役割とその実態について詳しい説明と問題提起がされました。会場からは講演内容を踏まえ、水利の利用方法や現状の問題点など、活発な質疑応答が行われました。

第36回トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催

●附属図書館

講演する佐々木准教授

附属図書館は、７月７日(火)、中央図書館２階ビブリオサロンにおいて、第36回友の会トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催しました。今回は、佐々木重洋文学研究科准教授による「民俗映像の記録と活用－奥三河、花祭の継承支援と地域連携の現場から－」と題した講演が行われ、学内外から34名の参加がありました。

講演では、まず、愛知県奥三河地域で行われている花祭が映像で紹介され、続けて、この花祭が継承の危機的状況にあり、無形民俗文化財として花祭を記録する意義について解説がされました。また、この記録事業では花祭の保存会が主体となって今後の継承活動に活用可能な記録を作り、研究者を含めた撮影者と保存会が協働作業で撮影・編集にあたってきたこと、保存会の中で花祭の神事や舞に関して議論し、祭の所作等への理解が深まったことについて紹介がされました。参加者からは、「映像もあり、現状の問題がわかりやすかった」などの感想が寄せられました。

名大を表敬訪問された方々［平成27年４月16日～７月15日］

日付	国／地域	訪問者	目　的
４月16日	モンゴル	モンゴル国立教育大学からダバースレン・ムンクジャルガル大学長他１名	表敬あいさつ
４月17日	ベトナム	ホーチミン国家政治学院からベトナム幹部職員21名	表敬あいさつ及び学内施設見学
５月12日	エチオピア	エチオピア連邦民主共和国大使館からマルコス・タクレ・リケ特命全権大使	表敬あいさつ
５月19日	米国	マサチューセッツ工科大学 MIT リーダーシップセンタースローンマネジメントスクールからイザベル・ゲレロ上席講師	表敬あいさつ及び 名古屋大学国際シンポジウム講演
５月22日	韓国	駐日大韓民国大使館からユ・フンス特命全権大使	表敬あいさつ
５月26日	カナダ	クイーンズ大学からダニエル・ウルフ学長他３名	表敬あいさつ及びITbM新棟竣工記念式典参加
５月29日	韓国	韓国研究財団（NRF）からチュン・ミンキュン理事長他３名	表敬あいさつ
６月11日	中国	駐名古屋中華人民共和国総領事館から葛廣彪　総領事他２名	表敬あいさつ
６月12日	オーストラリア	西オーストラリア大学からケント・アンダーソン副学長	表敬あいさつ
６月30日	タイ	カセサート大学からセクソム･アタマンクネ　カンペンセンキャンパス農学部長他４名	表敬あいさつ
６月30日	米国	ノースカロライナ州立大学グローバル・トレーニング・イニシアティブからマイケル・バッスル　ディレクター	表敬あいさつ
７月６日 ～７日	ウズベキスタン	駐日ウズベキスタン共和国大使館からファルフ・イスロムジョノヴィチ・トゥルスノフ特命全権大使他２名	表敬あいさつ及び意見交換
７月13日	英国	ケンブリッジ大学セント・ジョンズ・カレッジからマティアス・ドルゾフ学生部長	表敬あいさつ
７月13日	タイ	バンコク病院からプラサート・プラサートーンオーソト社長他30名	表敬あいさつ及び意見交換
７月14日 ～16日	ベトナム	ハノイ法科大学からチュ・マン・フン副学長他５名	表敬あいさつ、意見交換及び学内施設見学

新たに締結した学術交流協定［平成27年４月16日～７月15日］

大学間学術交流協定

締結日	地域／国名	大学／研究機関名
２月23日	メキシコ	メキシコ国立自治大学
４月10日	フランス	ストラスブール大学
４月24日	オーストラリア	モナシュ大学
６月18日	米国	フロリダ大学

部局間学術交流協定

締結日	地域／国名	大学／研究機関名	部局名
５月13日	シンガポール	シンガポール国立大学環境安全衛生室	環境安全衛生管理室
６月15日	米国	ワシントン大学工学部	工学部・工学研究科

構成員を対象とした研修［平成27年４月16日～７月15日］

実施日	研修名	目　的	参加人数
４月17日（金）	平成27年度動物実験講習会	新任教員及び新規に動物実験を開始する大学院生と学部４年生を対象として、生命農学研究科における動物実験のルールと注意点を講習することにより、動物実験における事故防止を図る。	50名
５月11日（月）	ハラスメント防止研修会及び新任教員説明会	工学研究科の新任教員を対象に、教育体制及び教育研究支援体制等の基礎的な知識の取得を目的に実施する。併せて、ハラスメント防止についての研修を行う。	18名
５月11日（月） ７月２日（木）	ハラスメント防止研修	構成員のハラスメントに対する認識を深めるとともに、防止意識を高めるため。	96名
５月20日（水） ５月21日（木）	平成27年度 東海地区国立大学法人等職員基礎研修	東海地区国立大学法人等機関での勤務経験が半年以上２年未満の者に対し、法人職員の心構え等を改めて習得させるとともに、共通して必要な業務遂行上の基礎知識及び能力を養成。	132名
５月27日（水） ５月28日（木）	平成27年度図書系職員初任者研修	附属図書館に新たに採用された職員、異動により転入した職員及びこれから図書業務を担当予定の職員に対し、図書館業務遂行に必要な基礎的な知識と技術を習得させることを目的とする。	30名
６月１日（月） ～４日（木）	平成27年度（前期）医療安全・感染対策・医薬品安全・個人情報保護研修	良質な医療を提供する体制の確立及び個々の安全に対する意識の向上を図るとともに、院内感染対策や個人情報保護を推進するため。	2,145名
６月10日（水）	平成27年度名古屋大学主任研修	名古屋大学職員の主任として職場における役割を自覚し、係長への準備段階として身につけておくべき態度や意識、リーダーシップ発揮に必要な諸能力を養う。	20名
６月11日（木）	平成27年度 NST 学習会 「嚥下訓練のスキルを学び、あなたも嚥下ナースになろう」	病棟で勤務する看護職員を対象に、嚥下困難患者へのケア方法・知識を習得させることにより、患者への食事摂取を促し、栄養状態の改善を計る。	61名
６月12日（金）	平成27年度農学部・生命農学研究科新任事務職員等研修	新任事務職員等を対象として、附属フィールド科学教育研究センター稲武、設楽及び東郷の各フィールドに赴き、各施設の理解を深め事務等の円滑化及び充実を図る。	14名
６月13日（土）	体育系クラブ新入部員研修	体育会加盟運動部に所属する１年生を対象に、課外活動の意義等について理解を深め、健全な課外活動によって大学生活をより有意義に過ごすことができるよう指導・助言を行うとともに、研修を通じて他の部員との交流を深めることを目的とする。	82名
６月24日（水）	平成27年度 名古屋大学パートタイム勤務職員等研修	パートタイム勤務職員（契約職員を含む）に対し、大学職員としての心構えを自覚させるとともに、業務遂行上必要な基礎知識、能力、態度等を養成する。	74名
６月25日（木）	第１回 TOEIC IP テスト	特に若手職員を対象に受験の機会を提供することにより、自己の実力を知り、自身の自己啓発の動機づけに繋げる。	38名

本学関係の新聞記事掲載一覧［平成27年６月16日～７月15日］

	記事	月日	新聞等名
1	本学が中心となって行っている国際共同実験OPERAの研究グループは、ニュートリノ振動の検出によって質量の存在を立証した	6.16（火） 6.25（木）	中日（朝刊） 毎日（朝刊）
2	未来社会創造機構設立記念式典及びナショナルイノベーションコンプレックス竣工式開催：12日 松尾総長は「愛知にはものづくりが根付いている。地域の強みを生かし革新的な技術を発展させたい」と語る	6.16（火）	日刊工業
3	本学の研究チームは３月に国内で観測されたオーロラは、中規模の磁気嵐が２度続けて起き、強い磁気嵐に発達していたことが原因だったとする解析結果を発表	6.16（火） 6.17（水）	読売 毎日（夕刊） 日経（朝刊）
4	本学は名古屋市守山区の県道15号で、乗用車の自動走行実験を行った	6.17（水）	日刊工業 他３社
5	久野弘幸教育発達科学研究科准教授が常任理事を務める「世界授業研究学会」が主催し福井県内で授業研究研修が行われ、シンガポールの小中学校教員らが高校での授業を参観し、同准教授が通訳を務めた	6.17（水）	県民福井
6	欧州発明家賞を受賞した飯島澄男本学特別招へい教授が受賞理由となった極小炭素素材カーボンナノチューブについて「量産化に向けて第一段階を越えつつある」と語る	6.17（水） 6.19（金）	中日（朝刊） 日刊工業
7	第21回博物館特別展「関戸弥太郎と宇宙線望遠鏡」開催：５月26日～９月26日まで	6.17（水） 6.24（水） 7. 1（水） 7. 8（水）	朝日（夕刊） 朝日（夕刊） 朝日（夕刊） 朝日（夕刊）
8	ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「次世代へのメッセージ」開催：天野 浩工学研究科教授が基調講演を行い「人生のスイッチを入れるのは皆さん自身だ。振り返って実り多き人生だったと思えるように、自分の今後について真剣に考えてほしい」と語る	6.18（木） 6.19（金）	読売 福島民友
9	東海がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン平成27年度市民公開講座「子どものがん」開催：28日 本学の医師などが講演	6.19（金） 6.25（木）	読売 中日（朝刊）
10	天野 浩工学研究科教授が電気学会の名誉員に迎えられ、推薦状を授与された	6.19（金）	電氣新聞
11	第58回名大カフェ「世界を照らす青色発光ダイオード」：24日 本田善央工学研究科准教授が講演	6.19（金）	毎日（朝刊）
12	フォーカス：「気孔」の謎、遺伝子レベルで解明 鳥居啓子トランスフォーマティブ生命分子研究所主任研究者	6.19（金）	日経（夕刊）
13	大場裕一生命農学研究科助教らのグループは一部のキノコが緑色に光る仕組みについて原因物質を特定	6.21（日）	中日（朝刊）
14	法科大学院合同説明会：20日 本学や南山大学、名城大学など６校の法科大学院の紹介	6.21（日）	中日（朝刊）
15	10周年記念憲法講座「戦争立法止めて平和をまもる」開催：20日 森 英樹本学名誉教授が講演	6.21（日）	毎日（朝刊）
16	著者登場：書籍「孫正義の参謀 ソフトバンク社長室長3000日」ソフトバンク顧問嶋 聡氏本学卒業生	6.22（月）	日刊工業
17	環境学研究科の研究グループは言語隠蔽効果と呼ばれる仕組みを裏付けることに成功	6.23（火）	毎日（朝刊）
18	第50回げんさいカフェ「御嶽山災害の教訓は？～現場から火山防災を考える～」開催：７月３日 阪本真由美減災連携研究センター特任准教授が講演	6.23（火）	中日（朝刊）
19	下村博文文部科学相は新国立競技場の建設で槇 文彦本学名誉博士らのデザイン見直し案の提言に耳を傾ける姿勢を示した	6.23（火）	毎日（朝刊）
20	中務邦雄理学研究科助教らの研究グループは微生物や植物に特有のグリオキシル酸回路の活性・不活性に関わる酵母「Ucc1」を発見	6.24（水）	日刊工業
21	武士道が日本を救う 塩村 耕文学研究科教授が古典文学の楽しみについて解説	6.24（水）	朝日（朝刊）
22	日中友好協会の新会長に丹羽宇一郎本学名誉博士が就任	6.24（水）	中日（朝刊）
23	経済産業省、国土交通省は本学や東京大学、自動車メーカー６社など産学官のオールジャパン体制で、自動運転技術の標準化や実証試験に着手すると発表	6.25（木）	日刊工業
24	アイサンテクノロジー ITS フェア2015開催：24日 加藤真平情報科学研究科准教授が基調講演し「３次元地図を使った技術ではグーグルに劣らず、強みを持つ技術を軸とした開発が重要」と語る	6.25（木）	日経（朝刊）
25	夏のボーナス特集 ボーナスの使い道は？ 愛知大学准教授冨村 圭氏本学卒業生	6.25（木）	中日（朝刊）
26	第４回 GSC 奨励賞：ウヤヌク・ムハメット工学研究科助教 デザイン型ヨウ素触媒を用いる新酸化触媒システムの開発	6.25（木）	化学工業日報
27	本学と日本貿易振興機構はグローバル人材の育成や企業の海外展開支援などで協力するための包括協定を締結	6.26（金） 7. 4（土） 7.14（火）	中日（朝刊） 読売 日経（朝刊） 日刊工業
28	赤﨑 勇本学特別教授が鹿児島県の伊藤祐一郎知事から県民栄誉賞を贈られた	6.26（金）	中日（朝刊）
29	解説スペシャル：多忙な部活 教員負担軽減 内田 良教育発達科学研究科准教授は「そもそも土日も休みなく練習することの是非が、不思議なくらい問題にされなかった」と語る	6.26（金）	読売
30	講習会 名古屋文化短大オープンカレッジ「ハリウッド映画史」開催：８月２、30日、９月６日 佐々木真帆美さん国際言語文化研究科生が解説	6.26（金）	毎日（朝刊）

本学関係の新聞記事掲載一覧［平成27年６月16日～７月15日］

	記事	月日	新聞等名
31	夏のボーナス特集 教えて!! ボーナス活用法 知っておきたい３Point　愛知大学准教授冨村 圭氏本学卒業生	6.26（金）	中日（朝刊）
32	本学はオーストラリア・アデレード大学とジョイント・ディグリー（共同学位）制度を始めると発表	6.26（金） 6.27（土）	中日（夕刊） 朝日（朝刊） 他２社
33	松尾総長は下村博文文部科学相が入学式や卒業式での国旗掲揚と国歌斉唱を要請したことについて「対応を検討する要請と受け止めている。十分議論したい」と語る	6.27（土）	毎日（朝刊）
34	野依良治本学特別教授が科学技術館の館長に就任	6.27（土）	読売 中日（朝刊）
35	国立大学志願者動向：本学は志願者の増加率が高かった	6.27（土）	毎日（朝刊）
36	天皇、皇后両陛下が７月26日に本学を視察し、赤﨑 勇本学特別教授が青色 LED 研究の説明を行い天野 浩工学研究科教授も同席	6.27（土）	中日（朝刊）
37	第97回全国高校野球選手権愛知大会：７月12日 教育学部附属高等学校対丹羽高等学校	6.28（日） 7.12（日）	毎日（朝刊） 毎日（朝刊）
38	益川敏英本学特別教授が平和への思いを語る	6.28（日） 6.29（月）	毎日（朝刊） 中日（朝刊）
39	著者登場：書籍「再生可能エネルギーの社会化ー社会的受容性から問いなおす」丸山康司環境学研究科准教授	6.29（月）	日刊工業
40	第99回 日本陸上競技選手権大会：5000メートル ３位 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生	6.29（月）	中日（朝刊）
41	五島剛太理学研究科教授らのグループは植物の細胞内に栄養素などの物質を運搬するタンパク質のメカニズムを解明	6.30（火）	中日（朝刊）
42	規制緩和で国立大学に競争力 特定研究大学について、「東京大学、京都大学、大阪大学、東北大学は他の研究型大学と格が違い、最近勢いのある本学や東京工業大学が食い込むか」と取り上げられる	6.30（火）	日刊工業
43	The Sixteenth International Conference on the Science and Application on Nanotubes 開催：29日 飯島澄男本学特別招へい教授が基調講演	6.30（火）	中日（朝刊）
44	この人：世界陸上に初出場する名大出身ランナー 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生	6.30（火）	中日（朝刊）
45	太陽地球環境研究所や北海道大学などのグループは上空の氷の結晶に太陽光が当たり、夜空に光って浮かび上がる「夜光雲」を北海道で観測したと発表	7. 1（水）	中日（朝刊）
46	本学に事務局を置く近現代史研究会が設立10周年記念講演会を４日に開き、５日に「歴史遺産と東海地域」をテーマにしたシンポジウムを開く	7. 1（水）	朝日（朝刊）
47	全国国公立・有名私大相談会開催：12日 本学や名古屋市立大学など中部圏をはじめとする全国約90大学の入試担当者が学部の特色や入試などの相談に個別に応じる	7. 1（水）	朝日（朝刊）
48	名神全通50年 老いる高速 対策急務 中村 光工学研究科教授は「若いときは病気にかかると思わないように、当時（1980年代）の日本は維持管理の重要性を低く見ていた」と語る	7. 2（木）	中日（朝刊）
49	生きものたちの時間 吉村 崇トランスフォーマティブ生命分子研究所教授④：おんどりはなぜ朝に鳴く 体内で「到来」を察知	7. 2（木）	中日（朝刊）
50	経済観測：社外取締役は飾り窓の人形か 丹羽宇一郎本学名誉博士	7. 2（木）	毎日（朝刊）
51	本学の学生寮で英国人留学生オリバー・マクマンさんと佐藤祥平さん本学大学院生がサッカー女子ワールドカップカナダ大会準決勝日本対イングランド戦をテレビ観戦しオリバーさんは「日本には、負けたチームのためにも優勝してほしい」と語る	7. 2（木）	中日（夕刊）
52	戦後70年：銃持てば戦争ありうる 赤﨑 勇本学特別教授が自身の戦争体験について語る	7. 3（金）	中日（朝刊）
53	益川敏英本学特別教授が名誉館長に就任する「ぎふメディアコスモス」を視察し「図書館が持つ雰囲気や文化を堪能してほしい」と語る	7. 3（金）	日経（朝刊） 他２社
54	国際第四紀学連合第19回大会一般普及講演会「第四紀学で読み解く地球の歴史 」開催：５日 本学の教授が講演	7. 3（金）	読売
55	ミクロの探検隊® 名古屋大学のムシを電子顕微鏡で観察しよう！開催：25日、８月29日	7. 3（金）	読売
56	附属図書館友の会トークサロン第36回ふみよむゆうべ「民俗映像の記録と活用 ー奥三河、花祭の継承支援と地域連携の現場からー」開催：７日 中央図書館２階ビブリオサロン	7. 3（金）	朝日（朝刊）
57	天野 浩工学研究科教授が浜松市から名誉市民の称号を贈られた	7. 4（土）	読売
58	叙位叙勲：正四位瑞宝中綬章 山下廣順本学名誉教授	7. 4（土）	読売
59	第47回全日本大学駅伝東海地区選考会：５日 ４位 名古屋大学	7. 5（日）	朝日（朝刊）
60	備える3.11から 災前の策 第117回想定シリーズ16 避難所㊦：阪本真由美減災連携研究センター特任准教授 運営に女性も積極参加	7. 6（月）	中日（朝刊）
61	市民公開講座「今、あなたができること。10年後も元気な私でいるために」開催：６月11日 後藤百万医学系研究科教授が講演	7. 6（月）	中日（朝刊）
62	山田清文医学部附属病院教授や環境学研究科、環境医学研究所の研究チームは、薬物依存者の意思決定がリスク回避より目先の利益を優先する近視眼的意思決定を行うメカニズムを解明	7. 7（火） 7. 9（木）	中日（朝刊） 朝日（朝刊）

本学関係の新聞記事掲載一覧［平成27年６月16日～７月15日］

	記事	月日	新聞等名
63	家森信善本学客員教授はギリシャ経済の影響について「円高に振れることになれば、東海地方の輸出産業を含め、日本企業の株価にマイナスの影響を与えるだろう」と語る	7. 7（火）	読売
64	「第四紀年代学，古気候学，考古学が解き明かす人類進化史の真相－ネアンデルタールの消滅とホモ・サピエンスの拡散－」開催：26日 野依記念学術交流館で行われる	7. 7（火）	中日（朝刊）
65	赤﨑 勇本学特別教授と天野 浩工学研究科教授が名城大学より特別栄誉教授の称号を授与された	7. 8（水） 7.14（火）	中日（朝刊）他３社 日刊工業
66	附属図書館医学部分館ミニ展示会「伝染病と闘ってきた－虎列刺 窒扶私 痘瘡 實布垤利亞 黒死病 そして－」開催：６月10日～９月30日 10日に青木國雄本学名誉教授の講演も行われる	7. 8（水）	朝日（朝刊）
67	槇 文彦本学名誉博士が新国立競技場の実施設計が了承されたことに対し「最大の問題は多くの問題を未解決のまま強行しようとするJSCの姿勢にある」などと寄稿	7. 8（水）	毎日（朝刊）
68	のよりサロン：「グローバル化と国際化」お互いの価値観尊重を 野依良治本学特別教授が本学学生と議論を交わす	7. 9（木）	中日（朝刊）
69	第10回ロレアル・ユネスコ女性科学者日本奨励賞：林 真妃さん理学研究科博士課程後期３年生	7. 9（木）	読売 毎日（朝刊）
70	大学の実力調査 西日本①：本学の奨学金や入学者数などが取り上げられる	7. 9（木）	読売
71	第97回全国高校野球選手権愛知大会：教育学部附属高等学校の出場選手の紹介	7. 9（木） 7.10（金）	朝日（朝刊） 毎日（朝刊）
72	東山哲也トランスフォーマティブ生命分子研究所教授らのグループは被子植物のめしべにできた受精卵が分裂していく様子を生きたまま観察することに世界で初めて成功	7.10（金） 7.11（土）	中日（朝刊）他２社 毎日（夕刊）
73	医出づる国 揺らぐ信頼②：長尾能雅医学部附属病院教授は「重大な死亡事故が起きれば、最先端の治療や研究も中断を余儀なくされる。安全は最も優先すべきテーマだと認識しなければならない」と語る	7.10（金）	日経（朝刊）
74	野外観察園セミナーハウス サテライト展示 ムシの世界－名古屋大学博物館の昆虫標本と切り紙と博物画開催：６日～10月30日	7.10（金）	毎日（朝刊）
75	下村博文文部科学相は槇 文彦本学名誉博士の建設取りやめを提言してきた開閉式屋根を支える２本の弓状の構造物について代替案を検討したことを明らかにした上で完成するのが東京五輪の開幕に「ぎりぎり間に合うか」との見通しとなったため、採用を見送ったことを明らかにした	7.10（金）	毎日（朝刊）
76	朝日カルチャーセンター「インド・チベット仏教と異教とのかかわり」：谷口富士夫本学非常勤講師	7.10（金）	朝日（朝刊）
77	ドクター井口のほのぼのクリニック：川辺の床屋さん 店を替えるには勇気が必要 愛知淑徳大学教授井口昭久氏元本学教授	7.11（土）	毎日（朝刊）
78	本学や京都大学、情報通信研究機構などがプロジェクトチームを立ち上げ、磁気嵐の発生を予測する高精度の手法と、地球規模で起きる被害のハザードマップの作成に着手	7.14（火）	読売
79	@大学：国際化対策 職員も英語研修 本学では「20年までに理系大学院講義の半分を英語による講義とする」という目標を掲げる	7.14（火）	毎日（朝刊）
80	「中根」の目 データが語る：偏差値が大きくアップした国公立大学 ５位名古屋大学法学部、経済学部	7.14（火）	毎日（朝刊）
81	日韓国交回復50周年記念シンポジウム「世界の中、アジアの中の日本と韓国」開催：11日 鈴木健介さん本学大学院生が「音楽などの韓国文化の流行で、日本で韓国に対する見方が大きく変わった」と語る	7.14（火）	中日（朝刊）
82	第97回全国高校野球選手権愛知大会：12日 １回戦 3−13で教育学部附属高等学校が丹羽高等学校に６回コールド負け	7.14（火）	朝日（朝刊）他２社
83	ウチの教授：関西大学教授三浦真琴氏本学博士課程後期修了	7.14（火）	毎日（朝刊）
84	前山伸也理学研究科助教らは核融合反応を起こすプラズマ中で、電子とイオンによるそれぞれの乱流が相互作用していることを明らかにした	7.15（水）	日刊工業
85	本学は2016年度の入学者選抜要項を発表し情報文化学部の社会人入試を廃止し、定員４人を一般入試に振り替える	7.15（水）	中日（朝刊）

第11回名古屋大学ホームカミングデイ
「持続可能社会の実現に向けて」を10月17日（土）に開催

ホームカミングデイには、「故郷に帰る」という意味が込められています。本学の同窓生、教職員OB・OG、在校生のご家族、地域の皆様をお招きし、本学の教育・研究活動の一端に触れていただく重要な行事として、毎年10月の第３土曜日に開催されています。

第11回目となる今回のメインテーマは、「持続可能社会の実現に向けて」としました。名古屋大学における新しい発見や技術革新が、社会の持続的な発展にどのように貢献できるのか、また、地球的諸問題に対して、我々自身がどのように社会に貢献し持続できるのか、皆様と一緒に考えていきたいと思います。

主なイベントを下記にご紹介します。この他にも、各学部・研究科において、同窓生・保護者の皆様向け行事等も企画しておりますので、パンフレットやホームページをご覧ください。どなたでも参加いただけますので、ご家族、ご友人の皆様とお誘い合わせの上、お越しください。皆様のご参加をお待ちしております。

主なイベント

【名古屋大学の集い】
・国際交流貢献顕彰授与式
・名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサート

【学術講演・関連企画】
・世界を照らすLED　・技術移転の萌芽

【市民公開講座等】
・新しい予防接種：
　成人や高齢者にも必要なワクチンって何？
・脈の乱れから脳卒中？～心房細動の最前線～
・これがガッテン流！健康法の極意だ
　～不老町で不老長寿宣言!?～
・宇宙ステーション補給機プロジェクトから学んだこと
・はやぶさ２が拓く小惑星からの惑星科学　ほか

【学生による音楽企画】
・名大生によるミニコンサート

【体験企画】
・あかりんご隊科学実験「入浴剤を作ろう☆」
・名古屋グランパス・スクールコーチによる
　親子ふれあいサッカー教室

【施設公開】
・ナショナルイノベーションコンプレックス（NIC）
・減災館　・赤﨑記念研究館展示室
・2008ノーベル賞展示室　・ケミストリーギャラリー

【見学ツアー】
・超高圧電子顕微鏡施設見学ツアー
・劣化橋梁施設 N^2U-BRIDGE の見学
・年代測定装置の見学
・メディアスタジオ見学ツアー
・スーパーコンピュータ見学ツアー

【図書館・博物館・大学文書資料室企画】
・オープンライブラリー
・秋季特別展「時を超える贈り物～今昔ものづくり～」
・博物館収蔵品大公開！
　動物組織、骨格標本、明治の博物画
・ミクロの探検隊®　・野外観察園公開
・切り紙作家石川進一朗による実演：ムシの切り紙
・企画展「地図・図面で見る名大キャンパスの歴史」

【販売コーナー】
・農産物の販売　・本のリユース市
・生協の名大グッズ等の販売

【各種相談会】
・海外留学プログラム説明会
・女性卒業生向けキャリア支援企画：名大・ママカフェ
・就サポ OB・OG 座談会
　～これからのキャリアについて共に考える～
ほか

お問い合わせ先

総務部広報渉外課　TEL：052-747-6558, 6559　FAX：052-747-6383　E-mail：home-coming@adm.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学ホームカミングデイホームページ　http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/home-coming-day/

概要パンフレット「名古屋大学プロフィール2015」を刊行

本学では、このたび概要パンフレット「名古屋大学プロフィール2015」を刊行しました。

本誌は、本体編と資料編（各年１回発行）の２冊で構成されています。本体編は、「名古屋大学の強みを発信する」をコンセプトに制作しており、今年度は「世界のトップ大学へ」をテーマとし、「未来へ続く志。」と題して、インタビュー形式でわかりやすく本学を紹介しています。資料編は、数字等のデータにより、本学の取り組みを客観的に紹介しています。

ご入り用の方は、広報渉外課で入手できます。

また、高校生向けパンフレット「GUIDE TO NAGOYA UNIVERSITY 2016」（年１回発行）も刊行しました。

ご入り用の方は、入試課で入手できます。

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容	
５月26日（火）～９月26日（土） 場　　所：博物館２階展示室 時　　間：10:00～16:00 休 館 日：日・月曜日 入 場 料：無料 ［問い合わせ先］ 博物館事務室　052-789-5767	**第21回博物館特別展「関戸弥太郎と宇宙線望遠鏡」**	
６月10日（水）～９月30日（水） 場　　所：附属図書館医学部分館 ２階入口ホール 時　　間：９:00～20:00（平日） （8/10～9/30は９:00～17:00）、 13:00～17:00（土曜日） 休 館 日：日・祝日、 ８月22日、25日～31日 入 場 料：無料 ［問い合わせ先］ 附属図書館医学部分館　052-744-2505	**附属図書館医学部分館ミニ展示会** **「伝染病と闘ってきた** **ー虎列刺 窒扶私 痘瘡 實布垤利亞 黒死病 そしてー」** 内　　容：医学部史料室（附属図書館医学部分館４階）に所蔵する史料の中から、「伝染病予防法」施行前後の人間と伝染病との歴史に関連する古医書、掛図などを展示公開する	

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容
7月4日(土)～~~25日(土)~~ 10月3日(土) ※展示期間を延長します **7月24日(金)～9月5日(土)、** **9月8日(火)～10月24日(土)** 場　　所：博物館２階展示室、ホワイエ、 博物館３階展示室 時　　間：10:00～16:00 休 館 日：日・月曜日 入 場 料：無料 [問い合わせ先] 博物館事務室　052-789-5767	**博物館スポット展示** テ ー マ：「第四紀における人類の進化と文化」 (7/4～10/3) 「鈴木五郎　石と陶器の融合アート」 (7/24～9/5) 「植物細胞壁のミクロの世界」 (9/8～10/24)
7月6日(月)～10月30日(金) 場　　所：博物館野外観察園 セミナーハウス２階 時　　間：10:00～16:00 休 館 日：土・日・祝日 (８月29日、10月10日臨時開館) 入 場 料：無料 [問い合わせ先] 博物館事務室　052-789-5767	**博物館野外観察園セミナーハウスサテライト展示** **「ムシの世界－名古屋大学博物館の昆虫標本と切り紙と博物画」** [関連ワークショップ] **切り紙実演** ８月27日(木) 10:00～12:00 10月10日(土) 11:00～12:00、13:30～15:00 講　　師：石川進一朗氏（切り紙作家）
7月21日(火)～８月29日(土) 場　　所：減災館 時　　間：13:00～16:00 休 館 日：日・月・祝日、第２・第４火曜日 入 場 料：無料 [問い合わせ先] 減災連携研究センター　052-789-3468	**減災館第８回特別企画展「避難生活に備える」**
8月18日(火)～10月15日(木) **(期間内の火・木曜日)** 場　　所：ES 総合館１階 ES ホール 時　　間：18:00～19:30 定　　員：200名 対　　象：一般（満18歳以上） 参 加 費：9,460円（全15回） [問い合わせ先] 研究協力部社会連携課　052-747-6584	**平成27年度名古屋大学公開講座** テ ー マ：「秩序と渾沌」

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容
8月25日（火）、26日（水） 場　　所：年代測定総合研究センター（8/25）、粟代鉱山（愛知県北設楽郡）、愛知県陶磁美術館（愛知県瀬戸市）（8/26） 時　　間：9：00〜17：00（8/25）、8：00〜18：00（8/26） 定　　員：20名 対　　象：小学５年生から中学生（両日参加可能な方） 参 加 費：無料（別途保険代と見学施設入館料が必要） ［問い合わせ先］ 年代測定総合研究センター事務局 052-789-2579	**年代測定総合研究センター** **夏休み特別企画　小中学生を対象とした体験学習** **「粘土鉱物の謎に迫る」** 内　　容：講義、焼き物作り、鉱山見学
8月28日（金） 場　　所：TOC 有明コンベンションホール４階 EAST ホール（東京都江東区） 定　　員：200名 対　　象：産学官連携事業に係る行政、大学、企業関係者 参 加 費：無料 ［問い合わせ先］ 未来社会創造機構研究支援室 052-789-5721	**平成27年度名古屋 COI 拠点成果発表会** **グローバルモビリティ拠点サミット2015** **［平成27年度名古屋 COI 拠点成果発表会］** 時　　間：10：30〜13：30 講 演 者：二宮芳樹（未来社会創造機構特任教授）、金森　等（同特任教授）、武田一哉（同教授）、新井史人（同教授） 内　　容：研究成果の概要紹介、実験車両自動走行デモ **［グローバルモビリティ拠点サミット2015］** 時　　間：13：30〜17：30 講 演 者：Mark Lawford 氏（マクマスター大学教授）、Huei Peng 氏（ミシガン大学教授）、Pieter Noordzij 氏（High Tech Automotive Campus）、Angkee Sripakagorn 氏（チュラロンコン大学准教授） 内　　容：海外モビリティ研究拠点の紹介、パネルディスカッション
8月29日（土）、30日（日） 場　　所：博物館（8/29）、郡上八幡美山鍾乳洞（岐阜県郡上市）（8/30） 時　　間：13：30〜16：00（8/29）、9：00〜18：00（8/30） 定　　員：30名 対　　象：小学３年生以上、一般（小学生は保護者同伴） 参 加 費：5,000円（バス代、入洞料、ケイビング器材・ガイド代、保険料） ［問い合わせ先］ 博物館事務室　052-789-5767	**平成27年度第２回地球教室－フィールドセミナー－** **「鍾乳洞の正体をあばこう！」** 内　　容：鍾乳洞を探検して色々な鍾乳石を観察し、そのでき方を知る実験を行う

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容
9月4日(金) 場　　所：豊田講堂、シンポジオンホール 時　　間：10:00〜17:00 対　　象：一般 参 加 費：無料 [問い合わせ先] 工学部・工学研究科社会連携室 052-789-5458	**テクノ・フェア名大2015** 講演題目：「産学官の更なる発展に向けて」 講 演 者：竹中謙正氏（経済産業省産業技術環境局大学連携室室長補佐） 講演題目：「名古屋大学の産学官連携：革新知から社会的価値の創出に向けて」 講 演 者：財満鎭明（本学副総長） 内　　容：講演、展示、研究室見学
9月8日(火)、9日(水) 場　　所：環境総合館1階レクチャーホール 時　　間：9:30〜18:00（9/8)、 9:00〜17:30（9/9)、 参 加 費：無料 対　　象：一般 [問い合わせ先] 環境学研究科 教授　清水 裕之　052-789-3745	**ドイツ研究振興協会と日本学術振興会による二国間セミナー「持続可能でレジリエントな都市計画を目指して」** 内　　容：日本学術振興会の二国間交流セミナーとして、ドイツドレスデンにあるライプニッツ生態都市・地域開発研究所の主要研究者7名と、環境学研究科都市環境学専攻の教員13名が、防災、環境保全、エネルギー、温暖化対策など様々な観点から討論を行う（同時通訳付）
9月8日(火) 場　　所：情報基盤センター4階会議室 時　　間：13:00〜14:30 定　　員：40名 対　　象：一般 参 加 費：無料 [問い合わせ先] 情報推進部情報推進課　052-789-4368	**平成27年度第5回情報連携統括本部公開講演会・研究会** 講 演 者：高倉弘喜氏（国立情報学研究所教授）
9月11日(金) 場　　所：減災館1階減災ホール 時　　間：18:00〜19:30 定　　員：100名 対　　象：一般 参 加 費：無料 [問い合わせ先] 減災連携研究センター　052-789-3468	**第113回防災アカデミー** 講演題目：「南海トラフ巨大地震の時代をどう迎えるか」 講 演 者：石橋克彦氏（神戸大学名誉教授）
9月12日(土)、26日(土)、10月3日(土) 場　　所：第4体育館（柔道場） 時　　間：14:00〜16:00 定　　員：30名 対　　象：小学生以上、一般 参 加 費：無料 [問い合わせ先] 工学研究科 教授　瓜谷　章　052-789-3797	**総合保健体育科学センター　柔道寝技教室** 講　　師：二村雄次（本学柔道部師範） 内　　容：柔道の寝技の実技講習

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容
9月12日（土） 場　　所：重要文化財旧開智学校校舎講堂（長野県松本市）、他 時　　間：13:00〜17:00 定　　員：30名 対　　象：一般 参 加 費：無料 ［問い合わせ先］ 重要文化財馬場家住宅研究センター 052-789-3748	**重要文化財馬場家住宅研究センター平成27年度公開講座「開智学校の魅力」** 講演題目：「開智学校における防災教育のあゆみ」 講 演 者：吉川卓治（重要文化財馬場家住宅研究センター教授） 講演題目：「擬洋風建築としての開智学校校舎」 講 演 者：西澤泰彦（同教授） 内　　容：講演、旧開智学校校舎見学、他
9月19日（土） 場　　所：豊田講堂、シンポジオンホール 時　　間：9:30〜17:05 定　　員：100名 対　　象：ポスドク、博士課程後期課程学生、博士人材の採用を検討する企業 参 加 費：無料 ［問い合わせ先］ 社会貢献人材育成本部 ビジネス人材育成センター　052-747-6490	**社会貢献人材育成本部ビジネス人材育成センター第５回「企業と博士人材の交流会」** 内　　容：研究成果報告ポスターセッション、合同企業説明会
9月19日（土）〜11月３日（火） 場　　所：愛知県および周辺地域 ［問い合わせ先］ 学術研究・産学官連携推進本部 特任講師　成　玖美　052-747-6527	**あいちサイエンスフェスティバル2015** 内　　容：様々なサイエンス／ものづくりイベントが集合する地域科学祭
9月25日（金） 場　　所：ストラスブール大学（フランス） 時　　間：10:15〜18:15 対　　象：一般 ［問い合わせ先］ 国際言語文化研究科 助教　伊藤信博　itoh@lang.nagoya-u.ac.jp	**国際言語文化研究科国際シンポジウム「食の危機と新しい農業のあり方をめざして」**
10月８日（木）〜11月19日（木） **（期間中の木曜日）** 場　　所：国際開発研究科棟８階オーデトリアム 定　　員：80名 対　　象：高校生以上、一般（全日程参加可能な方） 参 加 費：無料 ［問い合わせ先］ 文系事務部総務課（国際開発） 052-789-4952	**国際開発研究科2015年度公開講座「新時代の国際協力」** 内　　容：国際協力分野に関連する諸問題を、特に法、政治、社会と文化の側面から解説

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容
11月21日（土） 場　　所：理学南館１階坂田・平田ホール 時　　間：13:00〜16:35 定　　員：300名 参 加 費：無料 ［問い合わせ先］ 理学部・理学研究科事務部 052-789-6577	**素粒子宇宙起源研究機構** **一般相対論誕生100年記念市民講演会** 講演題目：「一般相対論の誕生」 講 演 者：佐藤文隆氏（京都大学名誉教授） 講演題目：「重力波の観測に挑む－アインシュタイン100年の宿題－」 講 演 者：梶田隆章氏（東京大学教授） 内　　容：時空理論とその周辺の研究の歴史、展開、そして最前線に触れる
11月28日（土） 場　　所：博物館野外観察園、 博物館２階展示室 時　　間：13:00〜15:00 参 加 費：無料 ［問い合わせ先］ 博物館事務室　052-789-5767	**博物館野外観察園見学会** 講　　師：西田佐知子（博物館准教授）、野崎ますみ（同研究員） 内　　容：季節の花をみながら自然を学び、電子顕微鏡でミクロの自然を見る

名大トピックス No.267　平成27年８月17日発行
編集・発行／名古屋大学総務部広報渉外課
本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。
名古屋市千種区不老町（〒464-8601）
TEL 052-789-2016　**FAX** 052-788-6272　**E-mail** kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ（http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/）でもご覧いただけます。

表紙
飛騨エアパークでの試験飛行
（人力飛行機製作サークル Air Craft）
（平成27年６月13日）

ちょっと名大史

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

160 福山すすむ作「田園」と豊田講堂

今年の６月16日から７月５日にかけて、愛知県安城市の安城市民ギャラリーにおいて、コレクション展「生誕百年　福山すすむ－教育に支えられた自立の芸術－」が開催されました。その目玉となった展示絵画の１つが、名大が所蔵する福山すすむ作「田園」です。この「田園」は、かつて豊田講堂の壁面に掲げられていたものでした。

形象派の創始者として知られる福山すすむは、1915（大正４）年に新潟県に生まれますが、まもなく台湾に渡り、そこで育ちました。やがて17歳で台湾の公学校（台湾の人々のための小学校）の教師になります。その後、絵画を本格的に学ぶようになり、独自の画法を発見し画風を確立していきました。流派の名称となった「形象」の概念は、台湾の子供たちへの教育実践の中から生まれ、それを絵画に応用したものです。

敗戦後の1946（昭和21）年、福山は日本に帰国、安城市に居をかまえ、ここを拠点に画家としての活動を始めました。1952年には形象派美術協会を創設、中央の画壇とは一線を画し、地域に根ざした活動を展開しました。美術教育にも熱心にとりくみ、安城を中心とする地域の美術文化の発展に広く貢献しました。30年近くを過ごした台湾との交流も、そのライフワークでした。

その福山が、1961年に名大へ寄贈したとされるのがこの「田園」です。その経緯を明らかにする記録は見つかっていませんが、関係者の話によると、農学部の宗像　桂教授から福山に豊田講堂（1960年竣工）の壁画の制作依頼があり、これをうけて制作寄贈されたものであるとのことです。当時の農学部は安城市にあり、絵画に興味を持った何人かの教員が福山のアトリエで趣味の時間を過ごしていましたが、宗像教授もその１人だったそうです。

その後の「田園」についても、豊田講堂の壁面を飾っていた場所や期間を含めて、あまりよく分かっていません。何かご存じでしたら、ぜひ情報をお寄せください。

1 | 3 | 5
2 | 4

1　コレクション展で展示された「田園」（左、135㎝×258㎝、油彩・パネル）。パンフレットの解説は、「線や色彩の表現から音楽が湧き出るような解き放たれた自由さを感じる」と評している。現在は、名大内の倉庫で保管されている。

2　「田園」が表紙を飾ったコレクション展のパンフレット。96点の福山作品が展示された（主催＝安城市民ギャラリー、協力＝形象派美術協会）。

3　「田園」を描く福山すすむ。場所は豊田講堂だと思われるが、「田園」は福山が1961年に名大に寄贈したとされる一方で、絵の裏側には「田園　一九六〇　福山すすむ」とのメモ書きがある。写真は豊講で仕上げをしたものか。

4　福山すすむ（1915－1987）。安城文化賞（1963年）、愛知県教育表彰文化賞（1976年）、愛知県芸術選奨文化賞（1981年）などを受賞した。大学院創薬科学研究科の福山透特任教授（東京大学名誉教授）は福山すすむの長男で、農学部の卒業生でもある。

5　安城時代の名大農学部（現在の安城市総合運動公園付近）。1966年に東山キャンパスへ移転した。

名古屋大学基金

名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。この基金は、平成18年3月に創設され、学生育英事業、教育・研究環境整備事業、国際交流事業などの充実のために活用されます。ご寄附のお申し込み、お問い合わせは広報渉外課（基金事務局）あて（電話052-789-4993, 2011、Ｅメール　kikin@adm.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。